



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



表彰式後の発表者及び審査員の方々(表彰式を欠席された方もいます。)

中部森林技術交流発表会開催

(P 2～6 に関連記事)

主な項目	○中部森林技術交流発表会開催	P 2～6
	○桶・樽サミット開催	P 6～8
	○各地からのたより	P 9～10
	○シリーズ「森林官からの便り」	P 11
	○シリーズ「ご当地自慢」	P 12

「産・学・官が連携して成果を発表」 平成二十五年度中部森林技術 交流発表会を開催

「技術普及課」一月二十九日から三十日にかけ、中部森林管理局大会議室において、「平成二十五年度中部森林技術交流発表会」を開催しました。

この発表会は、管内国有林及び民有林の行政・教育・研究機関、団体等が、森林・林業に関する試験研究、技術開発等、日頃からの取り組みの発表を通じて交流を図り、地域における森林・林業の推進と普及に資することを目的として毎年開催しているものです。

今年度は国有林関係から十二課題、民有林、学校関係等から十四課題、合わせて二十六課題が発表されました。



鈴木局長の挨拶



発表会場の様子

開会に当たり、鈴木局長から『国有林野事業の一般会計化の初年度にあたる今年度の発表会は、関係団体等との共同課題が際立ち、「産・学・官」が連携し、日頃の研究成果が発信されることは大変意義深いものがあり、発表会に向けて準備を進めてこられた発表者の皆さんはもとより、職場の同僚、学校の同級生、さらには指導していただいた先生方には心から敬意を表する。森林・林業の再生に向けて、地球温暖化防止をはじめとする森林の公益的機能の発揮や再生可能な資源としての木材や木質バイオマス、さらに農山村地域の雇用を創出する環境保全型産業としての林業に対する国民の方か

らの期待は大なるものがあると考えており、本日の発表会が民国の連携、あるいは行政・学術・産業との交流を通じて、その期待にしっかりと応えられる場となることを祈念する。』との挨拶がありました。

この後、国有林関係の発表では、森林施業、国土保全等の各分野から、関係機関・団体等と連携した試験研究、事例報告を中心に、林業の低コスト化や、地域と協働した取り組みなど、多岐にわたる課題の発表が行われました。

また、国有林関係に引き続き行われた



審査員の方々

学生・民有林関係の発表では、岐阜県立森林文化アカデミー、信州大学、長野県林業大学校、岐阜県立飛騨高山高校、岐阜県立岐阜農林高校、愛知県立田口高校、長野県林業総合センター、森林総合研究所森林農地整備センター中部整備局、有限会社和建築設計事務所、サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社水科学研究所からそれぞれの視点で掘り下げた課題や新たに取り組んだ開発課題に対する調査・研究により得られた成果についての発表が行われました。

二日間の発表終了後、松本森林整備部長から国有林の部の優秀賞三課題の発表を行うとともに、各課題の着眼点や効果、期待する今後の取り組みなどについて、信州大学農学部加藤正人教授と名古屋大学大学院山田容三准教授から講評をいただきました。



加藤正人教授の講評



受賞課題と受賞者は次のとおりです。

今回は、民有林、学校関係等から多くの課題を応募いただき、発表者・聴講者等を含め約三百五十名の参加者により盛大に開催されました。今後とも森林・林業技術の推進と普及に向け、各署等での技術開発、地域と連携した調査・研究など、民有林関係者との共働・協調を深め、その成果の共有と情報発信に積極的に取り組んでいくことにしています。



山田容三准教授の講評

□ 国有林の部

○ 優秀賞

- ・ 治山ダムにおける県産材コンクリート型枠合板の実証的施工について
中信署 長濱 健、岡庭敏夫



- ・ 高齢級人工林ヒノキ

のブランド化について

- 木曽署 黒澤友大
木曽官材市売協同組合 鈴木隆志



- ・ ササ生地におけるコンテナ苗を

活用した更新の試み
森林技術・支援センター 早川幸治



○ 努力賞

- ・ 伐採と造林の一貫作業

システムについて
北信署 木内重明、森田直宏
信州大学農学部 大塚 大



- ・ 白馬岳の山火事跡地の

モニタリング調査について
中信署 有賀 茂
信州大学山岳科学総合研究所
佐々木明彦、高橋耕一、鈴木啓助



- ・ 間伐材を利用した木製治山ダムの

施工について
南信署 澤口章一、中屋 忍





・急傾斜地における法枠工の経過と
勾配緩和網の導入について
富山署 竹内智絵
日本植生株式会社 秋田好弘



・コンテナ苗の普及に向けた
取り組みについて
南木曾支署 三村晴彦、吉村美美子



・岐阜県恵那農林事務所との連携（恵那
農業高校の国有林等見学の取組外）
東濃署 大野裕康



・民国連携による市町村森林整備計画の
ブラッシュアップについて
（指標林の設定）
飛騨署 日置順昭
岐阜県飛騨農林事務所 中谷和司



・シカの嗜好植物との混植による
ヒノキ苗の食害軽減効果の検証
森林技術・支援センター 千村知博
岐阜大学応用生物科学部 安藤正規



・中部森林管理局管内における
高齢ヒノキ人工林の林分構造
森林技術・支援センター 早川幸治
岐阜県立森林文化アカデミー
横井秀一



・雪害抵抗性品種「出羽の雪」の
試験導入について
富山・岐阜における事例
森林総合研究所
森林農地整備センター中部整備局
河原田裕二



□民有林の部（森林業振興賞）
・CS立体図を活用した作業路の
線形の検証について
長野県林業総合センター 高橋太郎

・木曽ヒノキ材による
超断熱木製サッシの開発
有限会社和建築設計事務所
青木和壽



・岐阜県東白川村国有林のヒノキ人工林
における水源涵養機能改善に向けた
調査研究
サントリーグローバルイノベーション
センター株式会社 川崎雅俊
筑波大学 恩田裕一、小松義隆



□学生の部(奨励賞)

・長野県西部地震に伴う御岳土石流跡に
おける約三十年間の植生遷移
信州大学農学部
堀井涼香、北原 曜、小野 裕



・航空機LiDARデータを用いた森林バイオマス推定
岡谷市横川地区を事例として
信州大学農学部
本村亜紀、加藤正人
長野県林業総合センター
戸田堅一郎



・木曽地方三浦実験林におけるヒノキ
天然更新に微地形と土壌が及ぼす影響
信州大学 農学部 森本壮一郎



・木質成分のアルコール抽出試験
木材需要拡大への提案
長野県林業大学校 古田啓悟



・狩猟サミット報告
立ち上がる若手ハンターたち
長野県林業大学校 高津勇佑



・コナラの胸高直径からシイタケ原木と
薪の収穫量を推定する
岐阜県立森林文化アカデミー
田中一徳



・未来へつなぐ森林づくり
岐阜県立飛騨高山高校
瀬瀬 樹、田立達也





・ニホンジカによる林業被害の
対策方法を探る
枝条巻き・テープ巻きの効果の検証
岐阜県立岐阜農林高校
小畑 晃、後藤洋哉



・フクシマの林業従事者が安心して
働ける職場環境づくり
岐阜県立森林文化アカデミー
渡邊篤慶



・間伐材の有効利用
木材燃料「アツマル」の開発と普及
愛知県立田口高校
寺田美里、両星達也

～ご案内～

中部森林管理局では、これまでの中部森林技術交流発表会及び、業務研究発表会等における発表内容を「発表要旨集」としてホームページの中で紹介しています。

この機会に是非ご覧ください。

「中部森林管理局ホーム」↓「森林管理署等概要」↓「森林技術センター」↓「新着情報」で掲載中

<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/gijyutu/index.html>



審査員の質疑



トークセッション

当日は、県内外からの一般参加者とともに、長野県・長野市・関係町村・関係団体などからの参加があり、約四百五十名となり、ホール入口に併設された地元木工品展示ブースは大変な賑わいを見せていました。

「木曽署」二月六日（木）木曽文化公園にて「桶・樽サミット」が開催されました。
このサミットは、桶や樽に代表される木曾に育む木を利用した木製品の普及と利用拡大を目的に「第十七回森林と緑を育む集い」の中心行事として開催されました。

**桶・樽サミット開催される
「木製品復活へ」**

サミットは、鈴木中部森林管理局長をコーディネーターに、「山みず季 URA RA つたや」の女将 池田操子氏、「NPO 法人 桶仕込み保存会」理事長 セーラ・マリ・カミングス氏、「日本木槽木管(株)新工場長 平川政治氏、「(株)桶数」代表取締役 伊藤今朝雄氏、「みたけグルメ工房」組合長 西尾礼子氏をコメントーターとしてトークセッションが行われました。



コーディネーター 鈴木局長

「木の良さ・優位性」について、コメントーターからは、それぞれの立場で、日頃から接している桶・樽の良さ、木製品の魅力についての発言がありました。池田操子氏からは、「旅館に木曽ヒノキ等の地元産材の風呂桶を設置し、利用者から「木の香がよい」「肌に優しい」「湯冷めをしない」などと大変評判がよ



コメンターの方々

い。木の風呂桶にしてよかった。」との発言がありました。

次に、「何故、桶・樽等木工製品の使用頻度が低いのか？」について、①素材重量 ②購入コスト ③メンテナンス等の面から代替製品を使用するユーザーが多い傾向にあるとの意見が挙げられた一方、桶職人の伊藤今朝雄氏からは、「少数派でもいいので、三百年生の天然木で作製した桶をメンテナンスしつつ、幾代も大切に使うて貰いたい。使う使わないは、価値観の違いである。」との発言があり、一時、会場が響めいた場面もありました。

一方、三岳グルメ工房の西尾さんから

は、木製桶は寿司・漬け物等の食品加工に好評で、特に「すんき」漬けにおいては「プラスチック製の桶を使用すると、発酵させるのに布団等による保温が必要であるが、木製の桶を使うと、その必要がなく一日で発酵し、味が円やかになり評判がよい。」、平川政治氏からは「経験上、木は酸性からアルカリ性までの耐用性が他の素材に比べ広く、素晴らしい素材である。」等の発言がありました。



コメンターの方々

その後、桶・樽材生産に向けての森林整備の充実や、桶・樽使用の実践と積極的なPRが必要であるとの意見集約が図られました。



会場の様子



桶・樽復活宣言

最後に池田操子氏により「桶・樽復活宣言」が示され、満場一致の拍手で採択され、桶・樽サミットは閉幕しました。

今回のサミットを通じ、木曽の伝統産業である桶・樽等、木工製品の普及と森林・林業・木材産業の発展を、この木曽の地から全国に向け発信できるように、今後の取組が期待されております。

平成二十五年度

国有林モニター会議の開催

【企画調整課】一月二十一日、中部森林管理局大会議室において、国有林モニターのご参加により国有林モニター会議を開催しました。

国有林モニター制度とは、より多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、広く一般からモニターを募り、国有林野事業についての理解を深めていただくと同時に、国有林野事業についての幅広いご意見等をいただき、これらのご意見を管理経営に役立てることで、「開かれた国有林」にふさわしい管理経営を行うことを目的としています。

今回の会議は平成二十四・二十五年度国有林モニターを努めていただいた三十六名の方々の中から十一名にご参加いただきました。

会議は、局長の冒頭挨拶で始まり、事務局から二年間のモニター活動の概要



モニター会議の様子

(モニター会議、二回の現地見学会、五回のモニターアンケート、国有林モニターの皆様から出された主な意見と局としての回答など) について報告の後、国有林モニターの皆様から、モニターとして二年間活動をいただいた中でのご意見、ご感想等について発表していただいた後、意見交換を行いました。

国有林モニターの皆様から、「林業の機械化を理解していなかったのでハーベスタを見てびっくりした」、「国有林からの情報発信は以前より増えているように感じる」、「いただいた資料は百科事典のような宝になる」、「資料は、用語が難し

いので、分かりやすくしてほしい」、「病院的の待合室で気軽に読まれるような冊子を作ってほしい」、「都市部では森林や国有林関係の情報は少ないので努力してほしい」、「木質バイオマス発電を見学したかった」、「木材利用について自治体のみならず企業への働きかけをしてはどうか」、「ニホンジカの被害により植生が単純化されている」、「木造住宅の耐震性が疑問である」、「モニター活動が終了しても国有林と繋がりを持っていきたい」、「諏訪大社の御柱が国有林から提供されることは興味がある」、「モニター活動に参加して楽しかった」などのご意見、ご



局職員及びモニター会議に参加いただいた方々

要望が出され、局長等からお答えしました。

また、閉会後に実施したアンケートでは、「会議は、管理局側のお話や出席者の生の声、考えもわかり良かった」、「今後も森林の育成・保護活動にかかわっていきたい」、「国有林は、自信を持って技術を民間に下ろしてください」、「現地見学会へのモニター家族の参加を検討してほしい(交通費は自己負担)」といったご感想、ご要望をいただきました。

中部森林管理局では、今回の国有林モニター会議でいただいた貴重なご意見を、これからの国有林野の管理・経営に活かしていきたいと考えております。

カラマツ写真コンテスト作品

長野駅善光寺口に展示

【企画調整課】昨年開催しました、「カラマツ黄葉写真コンテスト」(中部森林管理局と長野県との共催)及び「カラマツ新緑写真コンテスト」(長野林政協議会主催)の入賞作品全十五点をJR長野駅善光寺口駅前広場に展示しました。

作品は写真パネルに加工し、長野駅善光寺口利活用ネットワーク及び長野市が、長野市産の間伐材を使用して設置している「工事囲いアートギャラリー」に4月末まで展示されます。

長野県内外の皆様は、カラマツの魅力を知っていただき、長野県の観光PRに

貢献できればと考えています。なお、この木製ベンチは、長野県産材振興対策協議会とともに工事の実施主体である長野市に要望し、長野県の支援も受け設置されたものです。木材の利用により、工事期間の駅前広場の風景が少しでも魅力あるものになるよう局としても取り組んでいるところです。

入賞作品は、中部森林管理局ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。



展示の様子

各地からのたより

カラマツ新緑写真コンテスト

入選作品を撮影地各市へ贈呈

【中信署】平成二十五年十二月二十五日、本年度実施した「カラマツ新緑写真コンテスト」で最優秀賞を受賞した斉藤毅さん（伊那市）の作品「春の輝き」を吉野署長から撮影地である塩尻市の小口利幸市長へ贈呈しました。

県内の美しいカラマツの新緑を観光資源として見直すのを目的としており、県内外からの百八点の応募の中から、見事最優秀賞を受賞されました。



塩尻市へ作品を贈呈

斉藤さんの作品は、塩尻市奈良井の国道三六一号線沿いで撮影され、青空と鮮やかな淡いカラマツの新緑、奈良井川の清流が美しく、塩尻市長からは、「個人的にはカラマツの緑は桜より好き。大勢の市民の皆様に見ていただけるよう早速、市民交流センターえんぱーくに展示します。」と感謝の言葉をいただきました。



松本市へ作品を贈呈

また、優秀賞の盛壮司さん（長野市）の作品「緑風の中の青春」については、松本市上高地の梓川沿いで撮影された、淡いカラマツの新緑と梓川沿いを歩く初々しい学生達の姿が見事にマッチした作品であり、撮影地である松本市へ贈呈をしました。

松本市の加藤銀次郎山岳観光課長からは「昨年は上高地と野麦峠で撮影された

二作品を贈呈していただき、市の応接室に飾らせていただいている。今年もまた、贈呈いただき大変感謝しています。天然カラマツのフレームも色合いが良く年輪が緻密で重厚感がありとても綺麗。商工観光部長室へ展示し、岳都、松本市の観光PRにも活用していきたい。」と感謝の言葉をいただきました。

木曽青峰高校生徒から

木製ベンチが贈呈

【木曽署】一月二十二日に城山史跡の森倶楽部の柿崎副会長他六名が木曽青峰高校を訪問し、生徒が製作した木製ベンチの贈呈を受けました。

木曽町福島の市街地に隣接する城山周辺には、国有林、県有林（一部は木曽青



贈呈されたベンチ

峰高校の演習林として利用)、寺社有林からなる里山を「城山史跡の森」として平成十六年に当署と「城山史跡の森倶楽部」との間で、「多様な活動の森」に関する協定を締結し、ボランティア団体等と連携した森林環境教育の活動拠点として整備等を行っています。

「城山史跡の森」は木曾氏十八代の領主義康によって福島城(上の段城)の詰めの城として築かれた要害堅固な戦国末期の典型的な山城跡や木曾義仲が平家追討の兵を挙げた際に御嶽大権現の出現を願い、沐浴祈願したことから名付けられたと言われる権現滝や、多くの大木が残されています。



贈呈式後の記念写真

当地は、木曾川に沿った木曾町の町並や遠くに木曾駒ヶ岳を望むことができ、木曾福島駅から約十分とアクセスがよく、中京圏を始め、多くの方が訪れています。

贈呈を受けた、この木製ベンチの製作は、昨年度に続いての取り組みですが、今年度は九月から五つのグループに分かれ製作をされました。

材料は、高校の先輩たちが「城山史跡の森」で間伐して保管してあったヒノキの丸太を使用しています。製作は屋外に設置することを念頭に、丈夫さにも考慮し、設計図作成、製材、カンナかけ、組み立て、塗装までの全ての工程を生徒自ら行いました。

生徒代表から「安心して座れるように作ったので、大切に使用してください。」と贈呈を受けた柿崎副会長からは、「昨年贈呈されたベンチも地域住民や観光客が休憩施設として利用しており好評で、皆さんの取り組みに感謝します。」とお礼の言葉があり、その後は完成したベンチの前で集合写真を撮影し、贈呈式を終了しました。

この贈呈されたベンチは、四月の城山史跡の森の整備にあわせ設置することとしています。

今後、木曾森林ふれあい推進センターとも連携して、森林環境教育を始め、城山史跡の森の活動に積極的に支援をしていくこととしています。

信大生に国有林で

働く魅力を紹介

「南信署」一月二十四日、信州大学農学部森林科学科二年生を中心とする学生二十八名を対象に職場説明会を実施しました。この取り組みは、例年信州大学からの要望を受け実施しているものです。

当日は、署長の国有林事業の概要説明を始まりに、森林官、治山技術官、森林整備官等から担当する業務内容、林野庁の採用情報、毎年実施しているインターンシップ情報等について、職員十名で説明を行いました。

講義終了後の質疑応答では、学生から「外業と事務の割合はどのくらいなのか?」といった業務に関する質問や、女



森林官による説明



質疑応答の様子

性職員に対し「女性が働きやすい職場か?」など多くの質問が寄せられ、興味・関心の高さがみられました。

またアンケートでは、多くの学生から「林野庁での業務内容など細かく知ることができ、参考になった。」「説明のあったインターンシップに参加したい。」「公務員としての技術職以上の言葉による説得力を感じた。」といった意見をいただきました。

今年度、「中部森林管理局と信州大学農学部との連携と協力に関する協定」を締結しましたが、南信署でも毎年様々な分野で協力関係を築いています。今後も関係を継続する中で、今回の様な「国有林で働く」魅力も学生へ伝えていきたいと考えています。

シリーズ

「森林官からの便り」



〔愛知所 豊橋森林事務所〕

鈴木永江森林官

豊橋森林事務所は、静岡県との県境に接した愛知県東三河の南部豊橋市に位置し、中部森林管理局管内では最も南に所在します。

管轄する国有林は二流域、三市町村の七団地（豊橋市 二団地 約一千六百六十六ヘクタール 新城市四団地 約八百三十二ヘクタール 岡崎市一団地 約三百五十九ヘクタール）の約二千三百六十六ヘクタールと公有林野等官行造林一団地（岡崎市 約十七ヘクタール）となっています。

管内の多くが都市部にあり、森林との



豊橋国有林 神石山で登山者と太平洋・浜名湖を望む



非常勤職員と境界巡検

ふれあいを求め、多くの方が入林される傍らで、様々な事業を実行しています。特に豊橋・大沢国有林は人口三十八万人の豊橋市の東部に位置し、豊橋自然歩道等の遊歩道が整備され、標高も四百メートル以下、山容もなだらかであり、各世代の方々が気軽に訪れています。



非常勤職員と境界巡検

北麓には花の百名山の一つである葦毛湿原があり、そこから稜線まで登ると太平洋や浜名湖、天気の良いときは富士山が眺望でき、舟山城趾をはじめ中世・近代の史跡もあるため、人気の登山スポットとなっています。

最近の登山ブームと相まって訪れる方



葦毛湿原のシラタマホシクサ

が増えており、自然歩道を巡視していると、多くの登山者が声を掛けてくれます。登山者の方々と話をする中で、間伐することへの抵抗感がある方や、歩いている場所が国有林であることを知らない方も少なくないため、今後も対話を通じて訪れる方々への理解を深めていきたいと考えています。

当事務所の職員は森林官一名、非常勤職員二名の計三名で、造林・生産請負監督のほか、境界巡検、収穫調査、森林保全巡視の業務に従事しています。この時期は、距離にして五十キロメートルを超える第一種境界巡検を主な仕事としており、なだらかな山が多く、雪のない地域ですが、足場、足元の確保に努め慎重に行動するよう心掛けています。今年度の事業もほぼ完了しつつありますが、来年度は尾張西三河森林計画区の子備編成があり、早めに準備を始めたいと考えています。

今後とも、所との連携をはじめ、地域住民や国有林へ訪れる方々との交流を図りながら事業を進め、無事故・無災害で新年度を迎えたいと思います。

行事・会議等の予定

◎木曽地方温帯性針葉樹林検討会第3回

3月4日 中部局

◎治山・林道工事コンクール表彰式

3月6日 中部局



住宅欄間

欄間・衝立・パネル・天神様・獅子頭に代表される置物などの井波彫刻。楠・ケヤキ・桐を材料とし、荒彫りから仕上彫りまで二百本以上のノミ、彫刻刀を駆使します。

井波彫刻の起こりは、過去に幾度も焼失した井波別院瑞泉寺がその都度再建されてきたことに深くかかわっています。



衝立

宝暦・安永年間（一七六三年～一七七四年）の瑞泉寺再建の折、京都本願寺の御用彫刻師前川三四郎が派遣され、井波拝領地大工がこれについて習ったのが井波彫刻の始まりとされています。

明治に入ると、寺院欄間に工夫をこらした新しい住宅用の井波欄間の形態が整えられました。昭和に入ってから、寺社彫刻は活発で、東本願寺・東京築地本願寺・日光東照宮など、全国各地の寺社・仏閣の彫刻を数多く手がけ、それと並行して一般住宅欄間・獅子頭・置物などにも力が注がれました。

時代の流れとともに豪華さを誇った寺



瑞泉寺本堂



井波彫刻会館

社彫刻から、現在は民家の室内彫刻へと移り変わり、なかでも住宅欄間はその主力となっています。

名工の子孫によって受け継がれ、培われた「井波彫刻」は全国一の高度な技術を誇るようになり、昭和五十年五月、国の伝統的工芸品に指定されました。

平成五年七月には、井波彫刻会館が完成。館内には、二百二十年の伝統を誇る木彫刻技術の粋を集めた作品二百点を展示販売しています。



菅原道真の木像

アクセス

○〔公共交通機関〕

JR 西日本城端線福野駅から
車で約二十分

○〔自家用車〕

北陸自動車道砺波ICから
約十五分



八日町通り

彫刻師によって再建されてきた井波別院瑞泉寺。その表参道である八日町通り、門前町として発展した南砺市井波地域のシンボルで、別名瑞泉寺通りとも呼ばれています。石畳が敷かれ、周囲の古い家並みとともに落ちついた雰囲気をも出し出しています。道の両側には刻店、郷土玩具店、造酒屋などが軒を連ね、格子戸のある町家とともに趣のある風景を形づくっています。通りには木製あんどん、木製の欄干彫りのバス標識があります。また、それぞれ軒先には、世帯主の木彫の干支が掲げられています。